

ケアポート板橋

仁川 恭臣 (GHかもめの家/介護職員)

かもめの家

功 績 利用者さんの担当職員としてチームケアを主導し、多職種連携を図り褥瘡完治に成功。また、利用者さんの「歩きたい」という願いを実現させることが出来た功績。

褥瘡の再発もなく経過は良好、今では歩行器を使用しながら、自由に歩いて移動できるまでに回復し、QOL向上を実現。また、ご家族からも多くの感謝のお言葉を頂く事ができた事例。

推 薦 者 平田 敏理 (東坂下事業所所長)

推 薦 理 由 担当職員として医療連携看護・理学療法士との多職種連携を主導し、チームケアの中心として尽力した対応はまさに介護職員の模範となる事例でした。

また、利用者さんの何気ない言葉を聞き逃さず、想いに応えるための行動力。利用者さんには「輝きの一日」、ご家族には「安心を超えた感動」という価値の提供に繋げた仁川の対応は理事長賞に相応しい事例であると思い推薦させていただきます。

内 容

I・Tさん80代 女性 要介護度2 既往歴(認知症・骨粗鬆症・左大転子部頸部骨折)

Iさんは骨折による入院で、臀部に褥瘡(1cm×1cm、深さ1cm)ができてしまい、リハビリテーション病院、老健へ移る過程においても、褥瘡の状態は変わらずでした。

また、立位もやっとで自力歩行は困難な状態で車椅子を使用されている状態で今年1月にかもめの家に入所されてきました。

担当職員となった仁川が中心となり、情報を基に医療連携看護と治療計画を立案。同時進行で理学療法士とも連携を図り、福祉用具の選定を行いました。また、処置方法やリハビリ方法を撮影し、いつでも確認できるように居室に設置するなどの工夫を凝らし、結果、約4ヶ月で褥瘡は完治し現在も経過良好な状態を維持しています。

また、臀部の状態に改善が見られていく中で、ご本人が呟いた「歩きたい。」という言葉に仁川は聞き逃さず、その願いに応えるべく、理学療法士と連携を図り居室の環境整備・リハビリ内容を立案・実施。ご本人の生活歴から得意とする調理支援を通し、日常生活リハビリに注力し続けた事で、徐々に下肢筋力が向上。

結果、現在では歩行器を使用し自由に歩いて移動できるようになりました。久しぶりに歩けた喜びの笑顔を共有できたことは、仁川にとってもやりがいに繋がる結果となりました。

ご家族からも「前は鬱傾向で言葉数も少なかった。かもめに来て活気が出て本当に良かったです。ここまで回復するとは思っていませんでした。感謝しています。」と感謝のお言葉を頂くことが出来ました。